

## 短報 Short Report

### 広島県フロラ覚書 (13) 広島市における塩生植物3種の分布記録；イソホウキギ (広島市新記録), イソヤマテンツキ (新産地), ハマゴウ (新産地)

井上尚子<sup>1)</sup>・久藤広志<sup>2)</sup>・坪田博美<sup>3)</sup>

#### Memoranda for the Flora of Hiroshima Prefecture (13) New distribution records of three halophytes from Hiroshima City, Hiroshima Pref.; *Bassia littorea* (Makino) Freitag et G. Kadereit (new record from Hiroshima City), *Fimbristylis sieboldii* Miq. ex Franch. et Sav. (new locality), and *Vitex rotundifolia* L.f. (new locality).

Naoko Inoue<sup>1)</sup>, Hiroshi Hisato<sup>2)</sup> and Hiromi Tsubota<sup>3)</sup>

#### 摘要

イソホウキギ *Bassia littorea* (Makino) Freitag et G. Kadereit (ヒユ科) が、広島市西区太田川放水路の川岸で約 20 個体、また標本調査により佐伯区で 2021 年に採集された標本が確認された。これは広島市内では初めての証拠標本に基づいた記録である。また、イソヤマテンツキ *Fimbristylis sieboldii* Miq. ex Franch. et Sav. (カヤツリグサ科) とハマゴウ *Vitex rotundifolia* L.f. (シソ科 (旧クマツヅラ科)) の広島市における新産地が記録された。

キーワード：塩沼地, 太田川, 環境指標種, 自然海浜, 絶滅危惧植物

#### Summary

*Bassia littorea* (Makino) Freitag et G. Kadereit (Amaranthaceae) was newly recorded in Hiroshima City based on voucher specimens. Approximately 20 individuals were recorded along the Ota River in Nishi-ku, Hiroshima. Through a herbarium survey, specimen collected in 2021 from Saeki-ku was identified. New localities of *Fimbristylis sieboldii* Miq. ex Franch. et Sav. (Cyperaceae) and *Vitex rotundifolia* L.f. (Lamiaceae) have been reported in Hiroshima.

**Keywords:** Endangered plant, Environmental indicator species, Natural seashore, Ota River, Salt marsh

#### はじめに

瀬戸内海に臨み太田川のデルタ上に発達した市街地を中心に広がる広島市においては、海と川が接する汽水域は市の代表的な自然環境であり、そこに生育する塩生植物は重要な構成要素で

ある。今回は広島市における塩生植物の保全のための基礎資料として、2024年4月から2025年12月までに得られたイソホウキギ *Bassia littorea* (Makino) Freitag et G. Kadereit, イソヤマテンツキ *Fimbristylis sieboldii* Miq. ex Franch. et Sav., ハマゴウ *Vitex rotundifolia* L.f. の分布に関する情報を、

\* Contribution from the Hiroshima Botanical Garden, No. 123

1) 広島市植物公園 The Hiroshima Botanical Garden

2) 広島県呉市 Kure City, Hiroshima Prefecture, Japan

3) 広島大学瀬戸内 CN 国際共同研究センター宮島自然植物実験所  
Miyajima Natural Botanical Garden, Hiroshima University

証拠標本に基づいて記録する。なお、本報では学名を YList (米倉・梶田 2003-) に従って記す。

### 1. イソハウキギ *Bassia littorea* (Makino) Freitag et G. Kadereit (Amaranthaceae)

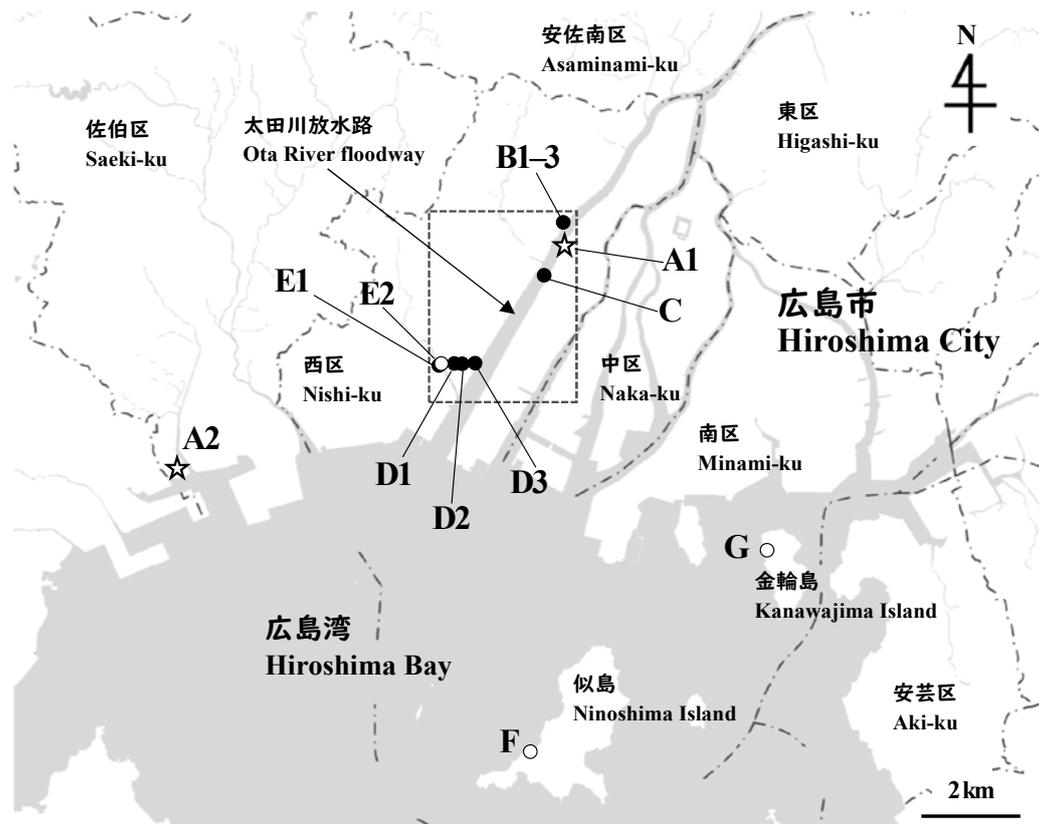
イソハウキギは海辺の砂泥地に生育する一年草で、本州（東海地方以西）、四国、九州、朝鮮半島、中国（東北）に分布する（米倉 2017a）。本種は河川改修や沿岸開発の影響を受けやすい生育環境に生存するため、京都府および兵庫県ではすでに絶滅したとされるほか（府民環境部自然環境保全課 2023；兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課 2020）、多くの地域でレッドデータブック等掲載種となっている（愛知県環境調査センター 2020；大分県自然環境学術調査会 2023；片岡・榎本 2020；三重県農林水産部みどり共生推進課 2015；末広 2021；福岡県環境部自然環境課 2011）。

広島県においては、呉市倉橋町（呉市教育委員

会 1975）、廿日市市宮島町（関ほか 1975）、呉市安浦町（広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会 1997。以下、引用時「広島県植物誌」と表記）、福山市（江塚・松本 1985）の記録があるがその出現は稀で（広島県植物誌）、関太郎広島大学名誉教授によれば、宮島では関ほか（1975）発表後の生育が確認されていない。

広島市における本種の自生記録については、唯一、戦前の広島県の植物相をまとめた高木リスト（広島市植物公園 2005）に「江波」と記載があるが、証拠標本は確認されていない。したがって本報告が、広島市におけるはじめての証拠標本に基づいた記録である。

今回イソハウキギの生育が確認された場所は、太田川放水路左岸の新己斐橋上流の敷石護岸とその周辺の砂だまりで（図 1、図 2、図 3a, b、表 1）、著者の久藤が 2025 年 10 月 7 日に約 20 個体の生



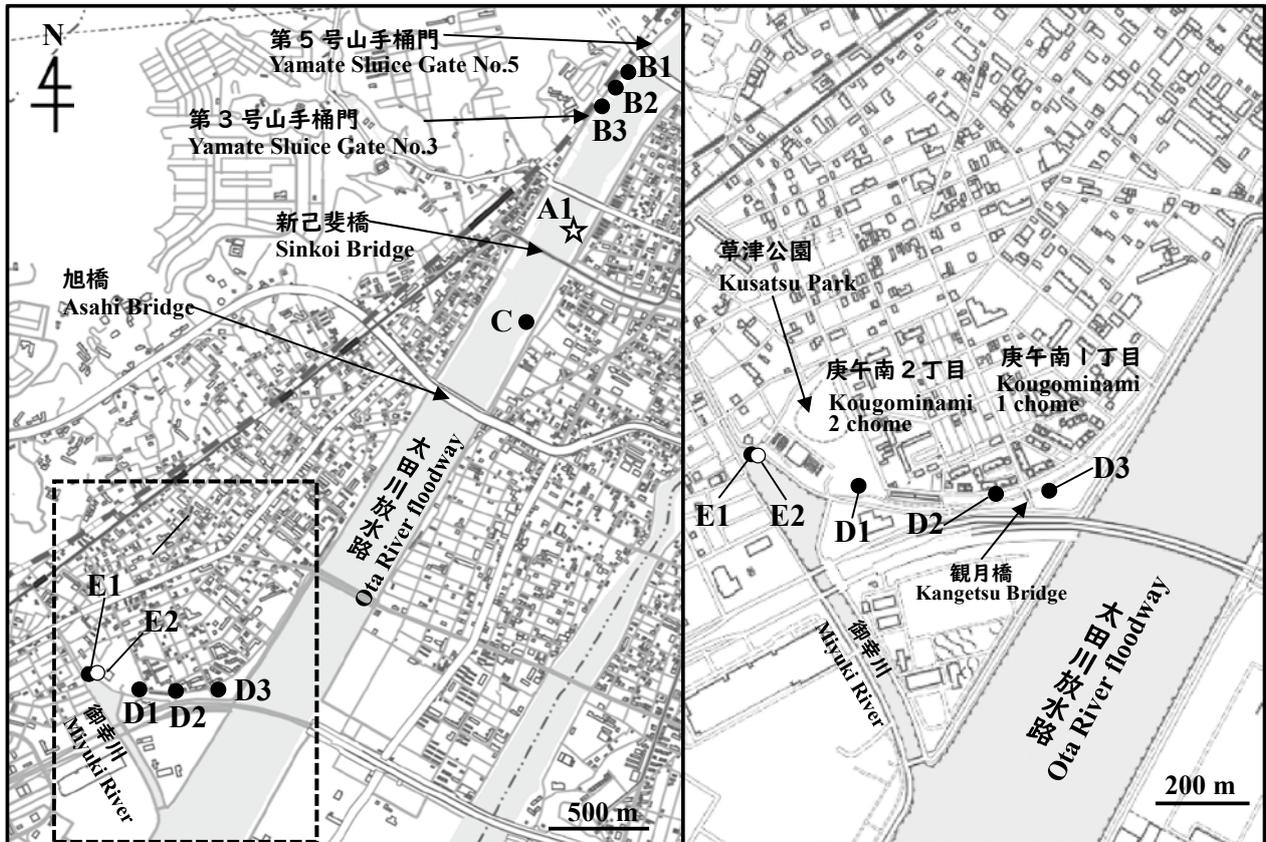
「白地図データ」(国土地理院) (<https://maps.gsi.go.jp/vector/#9/>) をもとに作成

図 1. 調査地点

☆ A1-2: イソハウキギ, ● B1-3, C, D1-3, E1: イソヤマテンツキ, ○ E2, F, G: ハマゴウ。破線四角内の拡大図を図 2 に示した

Figure 1. Investigated sites

☆ A1-2: *Bassia littorea*, ● B1-3, C, D1-3, E1: *Fimbristylis sieboldii*, ○ E2, F, G: *Vitex rotundifolia*. Inside the dashed line square is magnified in Figure 2



「白地図データ」(国土地理院) (<https://maps.gsi.go.jp/vector/#9/>) を加工して作成

図2. 左側は図1 破線四角内を拡大したもの. さらに左下の破線四角内の拡大図を右側に示した

☆ A1: イソホウキギ, ● B1-3, C, D1-3, E1: イソヤマテンツキ, ○ E2: ハマゴウ

Figure 2. Left side shows magnified area inside the dashed line square in Figure 1.

Inside the bottom-left dashed line square is enlarged in the right square. ☆ A1-2: *Bassia littorea*, ● B1-3, C, D1-3, E1: *Fimbristylis sieboldii*, ○ E2: *Vitex rotundifolia*

表1. 調査地

Table 1. Investigated sites

地点 <sup>1)</sup> Site	調査対象 Subject of investigation	地名 Adress Hiroshima City	緯度 latitude 経度 longitude
A1	<i>Bassia littorea</i>	西区福島1丁目	34.397083, 132.433111
A2		佐伯区美の里1丁目	34.356561, 132.350267
B1		西区山手町	34.404508, 132.435842
B2	<i>Fimbristylis sieboldii</i>	西区山手町	34.403565, 132.434992
B3		西区己斐東1丁目	34.402357, 132.433882
C		西区福島2丁目	34.392813, 132.430198
D1		西区庚午南2丁目	34.376497, 132.408969
D2		西区庚午南2丁目	34.376314, 132.411136
D3		西区庚午南1丁目	34.376722, 132.413363
E1		西区草津東1丁目	34.377333, 132.406299
E2	<i>Vitex rotundifolia</i>	西区草津東1丁目	34.377430, 132.406420
F		南区似島町	34.306328, 132.425505
G		南区宇品町金輪島	34.342619, 132.477977

1): 調査地の位置は図1 参照. A2 は標本調査によるため推定される緯度経度



図3. 調査地 A1 の様子 (2025 年 10 月 10 日. 以下 2025 年は省略する)

a: 敷石護岸の石の隙間から生えていた

b: 敷石護岸際の砂だまりにホソバハマアカザやホコガタアカザと並んで生えていた. イソノウキギを三角で示した

c: 両性花を三角で示した (10 月 7 日)

d: 雌花を三角で示した (10 月 7 日)

e: 果実 (12 月 4 日)

f: 葉 (10 月 10 日採集標本). 葉脈を矢印で示した

Figure 3. *Bassia littorea*

a, b: Investigated site A1 (10 October 2025)

a: Individuals growing between stones of the stone revetment

b: An individual (indicated by a triangle) growing on sandy deposits with *Atriplex patens* and *A. prostrata*

c: Hemaphroditic flower indicated by triangle (7 October 2025)

d: Female flower indicated by triangle (7 October 2025)

e: Fruit (4 December 2025)

f: Leaves from a specimen collected on 10 October 2025, with veins indicated by arrows

育を確認した。イソホウキギの草丈は最大約1 mで、周辺にホソバハマアカザ *Atriplex patens* (Litv.) Iljin やホコガタアカザ *Atriplex prostrata* Boucher ex DC. が見られた (図 3b)。2025 年 10 月 7 日時点で両性花と雌花が開花中であった (図 3c, 3d)。茎の下部から上部にかけて多くの枝を水平近い角度で広げていたこと、雌花の花被片は、果期に上部が全縁の翼となっていたことから (図 3e)、茎の中部以上で多くの枝を出し、花被片の上部の縁に不規則な切れ込みがあるホウキギ *Bassia scoparia* (L.) A.J.Scott とは区別された (米倉 2017a)。また、葉に 3 脈があったことから (図 3f)、同属の帰化植物であるシラゲホウキギ *Bassia scoparia* (L.) A.J.Scott var. *subvillosa* (Moq.) Lambinon とは区別された (勝山 2001)。また、標本調査の結果、2021 年に広島市佐伯区で広島市在住の植物研究家、武内一恵氏により採集された標本が確認できた (図 1, 表 1)。この場所についてはその後生育が確認できていない。

[証拠標本] 広島市植物公園標本庫 (HIBG) および広島大学植物標本庫 (HIRO) に保管している。HIBG-28322, HIRO-MY173156

## 2. イソヤマテンツキ *Fimbristylis sieboldii* Miq. ex Franch. et Sav. (Cyperaceae)

イソヤマテンツキは、カヤツリグサ科テンツキ属の海岸の岩窪や塩生湿地に生える草本で、本州 (千葉県, 石川県以西, 伊豆半島), 小笠原諸島, 四国, 九州, 南西諸島 (奄美大島, 尖閣諸島), 朝鮮半島南部, 中国に分布する (星野・正木 2011; 勝山 2015)。広島県内の生育地としては広島県植物誌に、広島市 (太田川放水路), 宮島, 呉市上蒲刈島, 福山市が掲載されているほか、土井 (1983) には広島市西区井口が挙げられている。広島市内の生育地のうち井口の記録は標本が確認されていない。太田川放水路の生育地付近では、1981 年に採集された標本 (HIRO-MY9437) が広島大学植物標本庫にあり、その後 2019 年 12 月にヒコビア植物観察会が開催された際に生育が確認されていたが、2019 年以降緊急用河川敷道路整備に伴い環境が変化しているため、現状調査を行った。また、既知の生育地以外の生育地を周辺地域で調査した。

その結果、今回、西区草津東 1 丁目から西区庚午南 1 丁目にかけて、本種の新たな生育地を確認した。本生育地は、御幸川左岸の砂だまりと草津

公園から観月橋周辺にかけての緑地帯である (図 1, 図 2, 図 4a-d, 表 1)。

御幸川左岸の生育地は、2025 年 7 月 22 日 (中潮) の干潮時には水面から砂だまりの最高部までの高低差が約 2 m, 水平距離は約 10 m であった (図 4a)。低位面にはハマツナ *Suaeda maritima* (L.) Dumort. subsp. *asiatica* H.Hara が群生し、高位面にはオニウシノケグサ *Lolium arundinaceum* (Schreb.) Darbysh., ナンキンハゼ *Triadica sebifera* (L.) Small, ハマボウ *Hibiscus hamabo* Siebold et Zucc. などが生えていた。イソヤマテンツキはその中間にあり、しばしばハマサジ *Limonium tetragonum* (Thunb.) A.A.Bullock と混生していた (図 4b)。

草津公園から観月橋周辺にかけての生育地 (図 1, 図 2, 表 1) は、主として側溝沿いの緑地帯に分布し、しばしば群生が認められた (図 4c, d)。周辺にはヨシ *Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex Steud. やヤマイ *Fimbristylis subbispicata* Nees et Meyen が生育する地点もあった (図 4c)。

本生育地は、公園として整備され、ヒラドツツジ *Rhododendron × pulchrum* Sweet など塩生湿地に生育しない植物種が植栽されているなど、一般に知られる本種の生育環境 (海岸や塩生湿地; 星野・正木 2011; 勝山 2015) とは一見異なる。しかし、調査時には側溝を通じて塩味を呈する水の流入が確認され、加えて近接する側溝内でフナムシの生息も観察されたことから、本生育地は海水の影響を受ける環境であると考えられた。

太田川放水路では、右岸の第 3 号山手桶門から第 5 号山手桶門の間の高水敷と、左岸の新己斐橋と旭橋の間で生育を確認した (図 1, 図 2, 図 4e, f, 表 1)。以前の生育状況との比較はできないが、比較的広範囲に多数個体の生育を確認した。調査地点のうち最も上流に位置する B1 では、2025 年 10 月 7 日 (大潮) の満潮時に本種の生育地が冠水するのを観察した。株元の水深は 5–10 cm であった。[証拠標本] 広島市植物公園標本庫 (HIBG) および広島大学植物標本庫 (HIRO) に保管している。HIBG-28295, HIBG-28303, HIBG-28306, HIBG-28289, HIBG-28290, HIBG-28291, HIRO-MY157559, HIRO-MY162722

## 3. ハマゴウ *Vitex rotundifolia* L.f. (Lamiaceae)

ハマゴウは海岸砂丘に群生する落葉小低木で、



図4. イソヤマテンツキ

a: 調査地 E1 の干潮時の様子 (2025 年 7 月 22 日, 以下 2025 年は省略する). 三角で示したあたりを b に示した. b: イソヤマテンツキ (白三角) の個体の周辺にはハマサジ (黒三角) が生育していることが多かった. c: 調査地 D1 の様子 (8 月 1 日). イソヤマテンツキが多く見られた所を破線で囲った. 黒三角で示した所にヤマイが生育していた. 白三角で示したあたりの様子を d に示した. d: 調査地 D2 の群生. e: 調査地 B2 周辺の様子 (7 月 22 日). 周辺にはハマサジやハママツナ, ヨシが生えていた. f: 調査地 C の様子 (10 月 23 日). 破線内に多く見られた. 混生したハマサジを三角で示した

Figure 4. *Fimbristylis sieboldii*

a: View of site E1 at low tide (22 July 2025). The area indicated by a triangle is enlarged in b

b: Individuals (white triangles) often growing with *Limonium tetragonum* (black triangles)

c: View of site D1 (1 August 2025). Colonies of *F. sieboldii* are circled by broken lines. A *F. subbispicata* colony is indicated by a black triangle. The area indicated by the white triangle is enlarged in d

d: Colony of *F. sieboldii* at site D2

e: View of site B2 (22 July 2025). *L. tetragonum*, *Suaeda maritima* subsp. *asiatica*, and *Phragmites australis* were observed around individuals

f: View of site C (23 October 2025). The colonies are circled by broken lines, and *L. tetragonum* is indicated by triangles

本州，四国，九州，琉球，韓国，台湾，中国，東南アジア，太平洋諸島，オーストラリアに分布する（米倉 2017b）。本種は広島県内で複数個所の自生が知られるが，海岸の護岸工事のために激減し（広島県植物誌），広島市は本種を自然海浜の環境指標種としている（広島市 2000）。広島市からはこれまで西区井口（土井 1983），南区似島（広島市植物公園 2005），南区金輪島（広島県植物誌）の記録があるが，金輪島以外の生育地の証拠標本は確認されていない。

2024 年から 2025 年にわたる現地調査では，井口で本種の生育は確認されなかった。一方，似島では 2024 年 4 月 12 日に，金輪島では 2024 年 6 月 16 日に本種の生育が確認された（図 1，表 1）。似島の生育地は，島南西部の砂浜海岸で，距離約 50 m，幅約 10 m の群落を確認した（図 5b）。カラヨモギ *Artemisia cappillaris* Thunb.，コマツヨイグサ *Oenothera laciniata* Hill.，アメリカネナシカズラ *Cuscuta campestris* Yuncker などと混生していた。現在，広島市内では最大規模の生育地であ

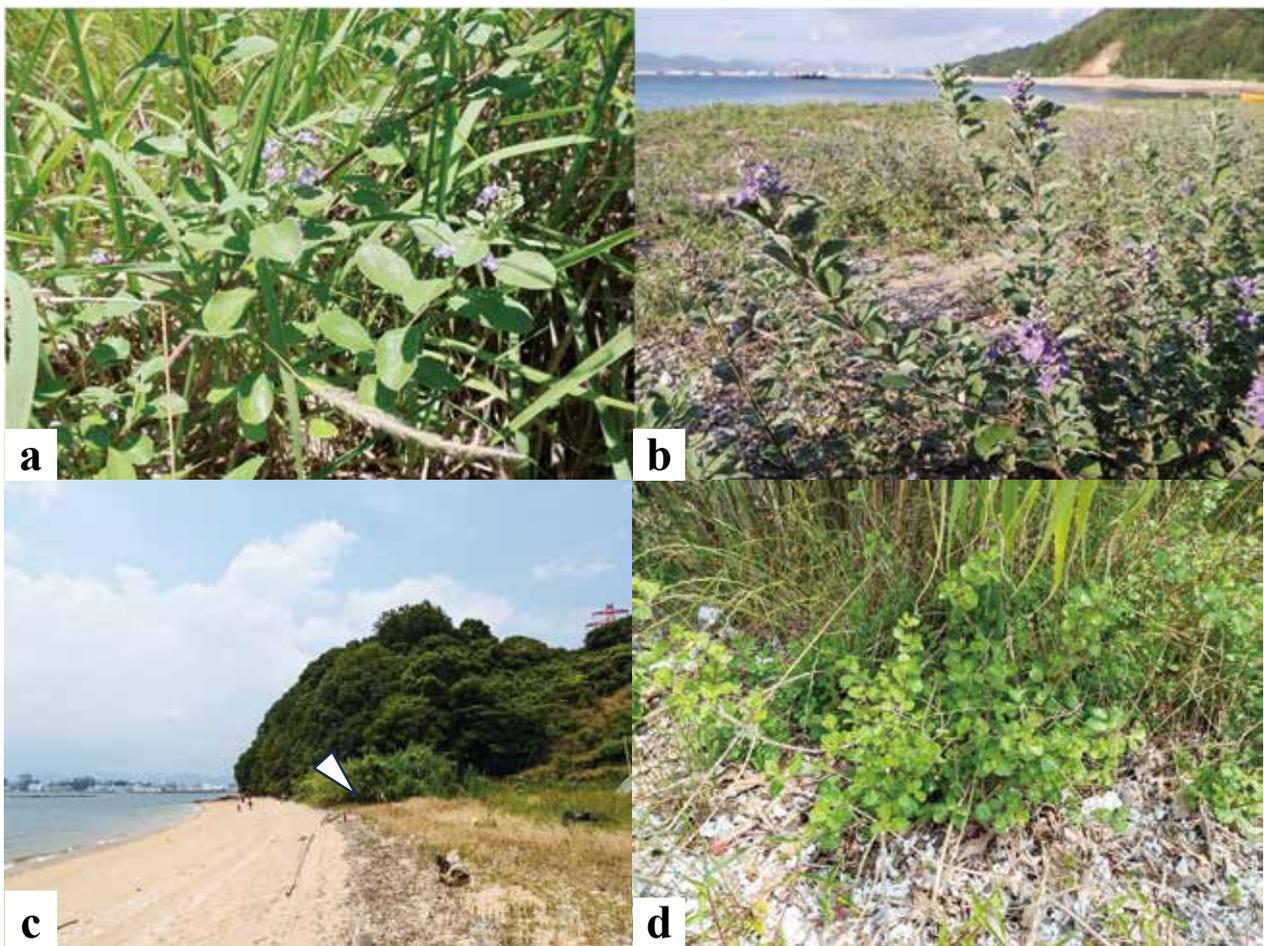


図 5. ハマゴウ

- a: 調査地 E2 の個体 (2025 年 7 月 22 日)  
 b: 調査地 F の群生 (2025 年 10 月 10 日)  
 c: 調査地 G の様子 (2024 年 6 月 16 日)。矢印で示した周辺の個体を d に示した。  
 d: c の矢印で示した周辺の個体 2024 年 6 月 16 日)

Figure 5. *Vitex rotundifolia*

- a: Individual at site E2 (22 July 2025)  
 b: Colony at site F (10 October 2025)  
 c: Habitat at site G (16 June 2024). The individuals indicated by triangle are shown in d  
 d: Individuals at site G (16 June 2024)

る。金輪島の生育地は、島西部の砂浜海岸で、周辺にはダンチク *Arundo donax* L. やアキノミチヤナギ *Polygonum polyneuron* Franch. et Sav. が生育していた。ただし、全体的に丈が低く、草刈りが定期的に行われている可能性がある。また、広島大学植物標本庫には1986年に採集された標本があり（HIRO-MY99569）、ラベルに「金輪島西側海岸」と表記されている。今回確認した生育地は島の西側海岸であったことから、1986年の調査時と同じ場所で再確認された可能性がある。

今回、これら既知の生育地以外に新たに西区草津東町で本種の生育を確認した（図1、図2、表1）。草津東町の生育地は、御幸川左岸のコンクリート護岸に近い砂が一番高く堆積した場所で、1個体が生育していた（図5a）。

〔証拠標本〕広島市植物公園標本庫（HIBG）および広島大学植物標本庫（HIRO）に保管している。HIBG-28293, HIBG-28309, HIRO-MY170296, HIRO-MY170486

## 謝 辞

本調査は広島市環境局環境保全課の広島市生物現況調査の一環として行った。太田川河川敷での調査に便宜を図ってくださった国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所の皆様に感謝申し上げます。また、標本調査に協力頂いた広島大学宮島自然植物実験所の内田慎治氏、紙本由佳理氏、大河夢叶氏、ファン＝クイン＝チ博士、中原－坪田美保博士、情報を提供頂いた広島市在住の武内一恵氏、イソヤマテンツキの同定をしてくださった岡山理科大学生物地球学部生物地球学科の矢野興一博士、広島市在住の若木小夜子氏、本稿をまとめるにあたり指導いただいた広島市生物現況調査業務の植物分科会委員長の世羅徹哉博士、広島大学名誉教授の関太郎博士に御礼申し上げます。

## 引用文献

愛知県環境調査センター 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2020—植物編—. 810 pp. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋.  
土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148 pp. 博新館, 広島.

江塚昭典・松本和夫 1985. 福山市周辺の植物相. 中国農事試験場報告 E23: 1–107.  
福岡県環境部自然環境課 2011. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011—植物群落・植物・哺乳類・鳥類—. 240 pp. 福岡県環境部自然環境課, 福岡.  
府民環境部自然環境保全課 2023. 京都府改訂版レッドリスト2022（シダ植物・種子植物）. [https://www.pref.kyoto.jp/kankyo\\_red/news/documents/redlist2022.pdf](https://www.pref.kyoto.jp/kankyo_red/news/documents/redlist2022.pdf) (2025年12月25日参照).  
広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会（編）1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.  
広島市 2000. 広島市の生物—まもりたい生命の営み—. 307 pp. 広島市環境局環境企画課, 広島.  
広島市植物公園（編）2005. 高木リスト 広島県産高等植物目録. 広島市植物公園紀要 22・23: 5–129.  
星野卓二・正木智美 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 782 pp. 平凡社, 東京.  
兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課（編）2020. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落）.（公財）ひょうご環境創造協会, 神戸.  
片岡博行・榎本敬 2020. ハマゴウ *Vitex rotundifolia* L.f. 岡山県版レッドデータブック 2020 植物編. pp. 279. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.  
勝山輝男 2001. ヒユ科 *Amaranthaceae*. 神奈川県植物誌調査会（編）神奈川県植物誌 2001. pp. 1187–1199. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.  
勝山輝男 2015. テンツキ属 *Fimbristylis* Vahl. 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編）改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科～カヤツリグサ科. pp. 346–350. 平凡社, 東京.  
呉市教育委員会（編）1975. 倉橋島の植物, 植物研究の手引 8. 121 pp. 呉.  
三重県農林水産部みどり共生推進課（編）2015. 三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 757 pp. 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.  
大分県自然環境学術調査会 2023. レッドデータブックおおいだ 2022. 310 pp. 大分県, 大分.  
関太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 巖

- 島（宮島）の維管束植物. 巖島（宮島）の自然. pp. 221–332. 宮島町, 宮島.
- 末広喜代一 2021. イソノウキギ *Bassia scoparia* var. *scoparia* (ヒユ科). 香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物. pp. 193. 香川県環境森林部みどり保全課, 高松.
- 米倉浩司 2017a. ヒユ科 Amaranthaceae. 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編）改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科～キョウチク
- トウ科. pp. 128–142. 平凡社, 東京.
- 米倉浩司 2017b. シソ科 Lamiaceae. 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編）改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイカズラ科. pp. 101–143. 平凡社, 東京.
- 米倉浩司・梶田忠 2003-. BG Plants 和名-学名インデックス (YList). <http://ylist.info> (2025年12月3日参照).